

今週のビルマのニュース  
2010年2月5日【1005号】

日本の「第三国定住」受け入れ 候補者の面接開始

・日本政府は2日、「第三国定住」制度によりビルマ難民を受け入れるため、タイのメソトで移住候補者の面接を始めた。候補者は国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が推薦した十数家族で、メソト近くのキャンプに住んでいる。同制度の下、既に約2万人が米国などに移住しており、アジアでは日本が初の受入国となる。選ばれた難民30人が9月に来日する予定（2日共同ほか）。

タイではカレン民族難民が強制送還される恐れ

・カレン女性機構（KWO）は2日、タイ政府に対する緊急要請を行い、タイのターク県ターソンヤンに住むカレン難民3,000人をビルマ側に強制送還する計画を中止するよう求めた。タイ国軍は5日に送還を始めるため準備を進めているとのこと。KWOによれば、送還予定地域は地雷原で、最近も地雷による死傷者が出るなど危険な状態にある（2日KWO）。

2009年末現在、ビルマの政治囚は2177人

・ビルマ政治囚支援協会（AAPP）が発表した2009年年次報告書によれば、2009年12月31日の時点でビルマの政治囚は前年より15人多い2,177人。拷問や不十分な医療体制などの劣悪な収容環境や長期間の拘束等によって129人もの政治囚が健康上の問題を抱えている（AAPP年次報告書）。

シャン州の軍政支配地域でケシ栽培が急増

・パラウン女性機構（PWO）が行った調査によれば、シャン州ナムカーン郡とマントン郡では、2007～2009年の3年間にアヘン生産用のケシ栽培面積が約5倍に増加した。同郡はビルマ軍政の支配下にあるが、軍や警察などの支配勢力は、住民のケシ栽培を黙認する代わりに「税金」の支払いを強要し、違法な収益を得ているとのこと（PWO報告書）。

岡田外相 選挙に向け「対話を強化していく」

・岡田外相は1月29日に外交演説を行い、ビルマについて「メコン地域とは、昨年11月の首脳会議の成果を着実にフォローアップし、協力関係を深化させていく。ミャンマーにおいて開かれた公正な選挙が実施され、民主化プロセスが進むよう、同国との対話を強化していく」と述べた（1月29日外務省）。

2007年9月のデモが題材の映画がオスカー候補に

・「Burma VJ 消された革命」がアカデミー賞長編ドキュメンタリー部門の候補に選ばれた。発表は3月7日。日本では5月から公開予定（BurmaInfo）。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など  
新たな発表はなし

イベント情報

・ビルマ軍事政権への抗議行動「カチン州ミッソングダム建設に反対！～第49回カチン革命日にあたって」カチン民族機構日本ほか在日ビルマ人のみなさん（在日ビルマ大使館前、5日15時～16時）

・第59回ビルマ市民フォーラム例会 根本敬（上智大学教授／運営委員）講演「アウンサンスーチーの非暴力主義は現場でどう解釈されているのか：タイ国境の民主化活動家たちの場合」ほか（池袋・ECOとしま8階、6日18時～）

・NGOメータオ・クリニック支援の会一般公開勉強会「ミャンマー／ビルマ難民移民無料診療所、メータオ・クリニックの今」（JICA地球ひろば2階セミナールーム201、6日16時半～）★要申込

注目記事

・パラウン女性機構の報告書「ビルマ軍事政権支配地域で急増するケシ栽培」概要（日本語）はこちら  
<http://www.burmainfo.org/article/article.php?mode=1&articleid=502>

もっと詳しい情報は

☆Twitter公式アカウントはこちらです  
<http://twitter.com/BurmaInfoJapan>

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）  
<http://www.burmainfo.org/news/today.php?mode=2>

ビルマ情報ネットワーク  
<http://www.burmainfo.org>

<p>お問い合わせ ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀 yuki@burmainfo.org 080-2006-0165</p>
---